

臨床放射線

編集委員

今井 裕
後閑 武彦
栗原 泰之
橋本 順
森 壘
中村 和正

編集協力委員

畠中 正光
小川 恭弘
松永 尚文
森 宣
村田喜代史
淡河恵津世
西山 佳宏

編集後記

▶本号の特集は「脳腫瘍の放射線治療と画像診断:画像診断医が伝えたいこと」です。悪性腫瘍治療の3本柱は手術療法、化学療法と放射線治療であり、脳腫瘍についてもこの基本は変わりません。これらの3分野の発達は目覚ましく、手術では画像支援による腫瘍切除率の向上、化学療法では分子標的薬の登場、放射線治療では高精度照射技術の発展などが挙げられます。これらのおかげで脳腫瘍でも長期生存が期待できるようになり、放射線壊死を代表とする治療後変化を目にする機会も増えました。これらは画像診断でどのように評価すればよいのでしょうか。本特集は第34回日本放射線腫瘍学会学術大会のシンポジウムの一つとして企画されたものをまとめたものです。病理学的視点やマルチモダリティでの治療後変化の画像診断のポイントを網羅しています。具体的には、ミクロ観点からの画像所見の理解に役立つ脳腫瘍の治療後変化における病理学的知見(本間論文)、形態的な腫瘍再発と放射線壊死との鑑別や、偽性増悪や偽性奏効などの治療後修飾(上谷論文)、MRI機能画像(拡散強調画像、MR spectroscopyや灌流画像など)を用いた腫瘍再発と放射線壊死(小林論文)および、PET画像(FDG、メチオニン、核酸を標識したFLTや低酸素領域に関連するFMISO)による鑑別ポイント(平田論文)です。また、脳転移に対する高精度放射線治療のこれまでとこれから(大平論文)も学べます。熟練の先生方による、最先端の画像診断と治療の現状をしっかりと吸収して下さい。▶症例論文は今回も様々な領域にわたる豊富な寄稿がなされました。ありがたい限りです。脳腫瘍と脳転移に見えた脳腫瘍(荒兼論文)、von Hippel-Lindau病に合併する内リンパ嚢腫(今上論文)、中年延髄のdiffuse midline glioma, H3 K27-altered(小谷論文)、髄膜腫の肺転移(沢村論文)、原発性肺髄膜腫(向井論文)、胸壁デスマイド腫瘍の異時性異所性再発(門前論文)など、どれも誌上での貴重な追体験が明日からの日常臨床のヒントになりそうです。「今月の症例」(小山論文)も、小児の肥厚性骨関節症はチアノーゼ性先天性心疾患、慢性的な呼吸器感染症や炎症性腸疾患に続発するというポイントが示され秀逸です。▶毎回、同じ思いを開陳して申し訳ございませんが、何度でも記します。投稿や症例を大切にする「臨床放射線」は特異な編集方針を持つ稀有な雑誌であり、今後も皆様の活発なご投稿によって一緒に盛り立てて頂ければと切に願います。

森 壘

「臨床放射線」第67巻 第7号

2022年7月10日発行(毎月10日発行)

定価 2,860 円(本体 2,600 円+税 10%)

年間購読料金

定価 43,670 円(本体 39,700 円+税 10%)

[年間13冊(臨時増刊号を含む)の誌代]

年間予約購読者に限り送料無料

発行所 金原出版株式会社

発行者 福村直樹

〒113-0034 東京都文京区湯島2-31-14

TEL 03(3811)7165 編集部直通

TEL 03(3811)7184 営業部直通

FAX 03(3813)0288

ホームページ www.kanehara-shuppan.co.jp

振替口座 00130-1-191269

印刷所 三報社印刷株式会社

広告申込先 福田商店 TEL 06(6941)5600

FAX 06(6941)5605

本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権(送信可能化権を含む)、貸与権、二次的著作物への利用に関する原著者の権利は、金原出版株式会社が保有します。

JCOPY <出版者著作権管理機構 委託出版物>

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつと事前に、出版者著作権管理機構(電話 03-5244-5088, FAX 03-5244-5089, e-mail info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。